

保 護 司 会

7月1日(水)、鶴田町保護司会(相川順子会長)が「第70回 社会を明るくする運動」の一環でスーパーストア敷地内(国道339号線沿い)に啓発のぼりを設置しました。

保護司とは、犯罪や非行をして「保護観察」を受けることになった人の生活を見守り、さまざまな相談に乗ったり、指導などの活動を行っている民間のボランティアです。

相川会長は「罪を犯した人が再び犯罪を重ねないようにするためには、地域の方々に理解をしてもらい、地域にとけ込ませ、社会的に孤立させないことが大切です」と話していました。

のぼり設置は今回で6回目で、7月31日まで設置される予定です。



△のぼりを設置する保護司の方たち

あ る じ ゃ 19 周 年 祭

6月20日(土)・21日(日)の2日間、道の駅つらた「鶴の里あるじゃ」で、開業19周年祭が開催されました。

今年は新型コロナウイルスの影響で従来よりも規模を縮小し、オープニングセレモニーも中止になりました。そんな中、毎年恒例の町友好姉妹都市である鹿児島県さつま町のカボチャ販売コーナーが今年も設けられ、多くのリピーターが買い求めていました。



△さつま町のカボチャを求めるお客さん



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班(内線262)までお知らせください。

紅 白 幕 を 寄 贈

4月22日(水)、鶴田ライオンズクラブ(乗田博会長)が4月5日に開校した、鶴田小学校で行われる式典などの催しに使ってほしいと紅白幕(高さ1.8m、横幅9m)を寄贈しました。

贈呈式では、乗田会長が紅白幕を中村校長に手渡しました。乗田会長は「式典があったときに使ってほしい、式典を華やかなものにできたら」と話していました。



△中村校長とライオンズクラブの会員

町の観光名所をカレーに

4月にオープンした鶴の舞橋観光施設・ここにもあるじゃ内のモンキーカフェ（藤田哲也代表）で、新メニューの「鶴の舞橋カレー」が販売されています。

鶴の舞橋を訪れた観光客に、ご当地メニューを味わってもらいたいと考案。「つがる豚」を使ったトンカツとメンチカツで舞橋のアーチを、ブロッコリーで踊り場を表現するなど鶴の舞橋を再現。そのほかにもサラダには町名産のスチューベン入りの自家製ドレッシングをかけるなど地元愛溢れる一品となっております。

「鶴の舞橋カレー」は、1食950円で同店舗内での食事限定で販売されています。



△鶴の舞橋を一皿に表現した「鶴の舞橋カレー」



△ヒナは親鳥に見守られながらすくすく成長しています

7年ぶりにヒナがふ化

6月13日（土）、丹頂鶴自然公園でタンチョウのヒナが7年ぶりに誕生しました。

親鳥は鶴田町生まれの鶴吉（雄）と鶴姫（雌）。茶色の幼毛をまとったヒナは親鳥の周りをよちよちと歩き回り、小さなくちばしで餌をついばむなど愛くるしい姿を披露していました。

町では1993年からタンチョウの飼育と繁殖に取り組んできました。現在の飼育数はヒナを含めて8羽となっております。今後については、約1年後に行う血液検査で性別が判明し次第名前を公募する予定です。

同公園の開園時間は午前9時から午後4時までとなっております。



気温も上がり、すっかり夏らしくなってきましたね。日中の農作業もはぐらん（津軽弁を使ってみました笑）に気を付けながら頑張っています！スチューベンが6月中旬に花が咲き、その前後から忙しい日々が始まりました。現在は、葉っぱの付け根からどんどん芽吹いてくる副梢と巻きひげをひたすら取る作業を行っています。こうすることでスチューベンの実の養分がいくようになります。取っても取っても生えてくるので正直途方もないです…。

そうした作業の合間に薬剤散布や草刈りなど慌ただしい毎日ですが、周りの先輩農家さんたちに助けをもらいながら何とかやっています！秋まで頑張るぞ！



△6月中旬に咲いたスチューベンの花

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS (facebook、Twitter、instagram、blog) でも確認することができます。（鶴田町HPにリンクを貼り付けています。）

鶴田町HP⇒<http://www.town.tsuruta.lg.jp/>